

## 大東亜戦争の真実 パール判事の霊言 (2015年6月23日霊示) 担当:石田 2015年8月30日

- 1 アメリカがフィリピンを植民地にしたのは歴史的事実。日本が植民地戦争をやったとして裁くのは理屈に合わない。「黄色人種には権利なし」「白人だけが植民地をもてる」として裁くのは絶対におかしい。天照の霊言「アメリカは太平洋に来る権利などない!“知恵遅れ”だ!」
  - 2 「将来、東京裁判の結果は歴史の法廷でひっくり返される」と信じ、遺言を残した。
  - 3 「大東亜共栄圏」の考え方は9割以上正しい。アメリカは満州国の権益が欲しかった。「清国」は満州人の国で、漢人の国ではない。溥儀は東京裁判で裏切り発言をしているが、彼の望んだ「独立」を助けたのは日本国である。戦後欧米諸国は植民地を作れなくなった。
  - 4 イギリスの戦艦を日本が沈めるのを見て、インド人は奮起し、独立戦争に勝利した。日本はアジアの解放者、昭和天皇はインドにとって救世主だった。中国は反省すべき。
  - 5 警察的な「善悪の問題」は多少あっても、大義の下に戦っている軍人には責任は無い。
  - 6 「軍事的に占領して、宗教的に改修させ、統治下に置く」という洗脳行為がカトリックの行動原理だった。歴代の法王は絞首刑の可能性だってある。中南米では平和のつもりで財宝を出したら、「取るものとして、皆殺し」にされた。これが連続と400年以上続いた。
  - 7 白人によるこの流れを誰かが止めねばならなかったが、日本が立ち上がって止めた。
  - 8 「八紘一宇」の精神は、神武帝の考えだが、侵略主義とはまったく関係のないもの。
  - 9 日韓併合は欧米諸国が認めていた。「アジアの統治、間接統治を(民度の高い)日本に任す」という国際世論があった。韓国は植民地ではない、日本と対等の立場で統治された。
  - 10 大東亜戦争とは1941年以降のこと、それ以前の中国内陸部の戦いは国際社会がウォッチして、「日本が悪い」とは言っていない。日本の(秩序回復の行動)を認めていた。
  - 11 真珠湾攻撃をアメリカは無線傍受で知っていた。ハル・ノートを突きつけた段階で日本を追い込んだ。「私は宣戦しない。戦争を造るのだ、来週戦争が起きる」C・ドール著「操られたルーズベルト」
  - 12 あらゆる国には、軍隊によって自国を防衛する権利がある。9条は「主権の放棄」を意味する。これが分からない憲法学者はクビにすべき。中国との記者協定で新聞は真実が語れない。
  - 13 自衛隊がアメリカの傭兵にされないためには日本も核武装すべき。でないと「アメリカ人の代わりに日本人が死ぬ」ということにもなるから。
  - 14 自衛隊を作った時点で憲法は変えるべきだった。「合憲、違憲」ではなく「廃憲」にすべし。家康の霊言「明治維新の前の体制に戻しても構わない、国家神道、廃仏毀釈など明治期の政治に問題あり」
  - 15 「大東亜戦争の真実」は戦後70年で書き換えるときが来た。あなた達の仕事である。
  - 16 私なら、一年間浮上しないで潜れる原子力潜水艦に核ミサイルを搭載し、配備する。
  - 17 東京裁判は、裁判している国が、侵略国家なんだから、裁判する資格がない。異常な裁判である。さかのぼって「無効」である。
  - 18 「日本的価値観」や「インド的価値観」が優勢になることで「世界が共存できる体制」ができる。一神教の国は戦争だらけ。自分達の意見以外は、全部悪魔の意見と見ている。
  - 19 日本がアメリカと引き分けていたら、あれだけの共産主義体制の膨張はなかった。
  - 20 日本神道の偉大性がやがて明らかになってくる。20~30年したら世界規模になってくる。日本人は世界のリーダーになるべきである。ムー文明の正当な継承者、最優秀な部族の末裔。
  - 21 特攻した人たちは“神々の一柱”である。アジアとアフリカの独立の母である。
- あとがき：日本文明のルーツはムー文明、インド文明のルーツはレムリア文明、同一の世界神によって指導されていた。インド霊界の神々と日本霊界の神々とはルーツが同じである。